

高山・市民の森 森林教室実施報告書

「森の散策と竹の器づくり」

令和3年10月12日

- 1 実施日時 令和3年10月10日(日) 10:00~14:30
- 2 参加講師名 NPO 森林インストラクターしずおか
担当者 大石、杉山
アシスト会員 青野、中川、高橋、小久保、佐野
- 3 参加者 14人(大人8人 うち一人午前中のみ、子ども6人)
- 4 概要

当初は、7家族23人の参加でしたが、天気予報が大きくはずれ、生憎の空模様となったことが影響してか、最終的に6家族14人の参加者となりました。午後の天気回復を信じ、午前午後のプログラムをチェンジし、午前は竹工作、午後を森林散策としました。結果的に、午前の竹工作では、皆さん集中して創作に励むことができ、数多くの作品を作りました。午後は雨にも降られず、個性あるインストラクターの案内のもと、楽しい森林散策ができました。

【竹の器づくり】

始める前に、まず、問題化している市の竹林の状況や活用の重要性、活用例、竹の種類、特徴など事前に説明してから、工作を開始しました。竹を切る時の材料の置き方、ノコギリの使い方、ナタで竹を割る要領、穴あけ時のドリルの使い方など手本を見て勉強してから、展示されている竹細工の見本を参考に、皆さん思い思いの自分なりの作品作りに取り掛かりました。

初めは、こわごわとした様子で鋸を引いていた子供も、終わる頃には大変上手になり、女の子も太いタケを見事に切れるようになりました。一方、お母さんが積極的に作品作りに取り組み、お皿、菜箸など実用的な製品を作っていました。その他には、花器、竹プランター、スマホ立て、貯金箱、竹リングのアクセサリなどが完成しました。貯金箱は、「小さなものより太い大きなものの方が、たくさん貯金できるよ。」などと言いながら、立派なものができました。

普段、体験できない竹工作に、参加者の皆さんは一生懸命に取り組み、数多くの竹製品を作ってくれました。今では、迷惑がられる竹ですが、いやいや、こんなにいろんなものに利用でき、また工作しやすい材料はないと実感してくれたのではないのでしょうか。

【森の散策】

参加家族を3つのグループに分け、それぞれに2人のインストラクターが森を案内しました。

開始早々、突然カモシカが現れ、人を恐れる気配はなく、悠々と草を食べる様子に皆さん興味津々で見入っていました。幸先の良いスタートとなりました。観察場所は、山頂を目指したグループと池周辺・中間展望台グループに分かれ行いました。

以下、それぞれのグループの様子を垣間見ることにしましょう。

(青野・小久保担当)

中学生と小学校高学年の2人の娘さんとそのお母さんの3人をガイドしました。皆元気一杯そうなので、高山の池に寄ってから山頂まで行ってみることにしました。予想通り皆さん坂道も苦にせずハイペースで山道を歩き、「途中でひと休みする？」と水を向けても「いえ、大丈夫です」と、ガイドするこちらが平静をよそおうのが大変なほどでした。こちらの息継ぎも兼ねて、途中で植物の説明を交えたりしながら、ほどなく山頂に着きました。天気があまり良くなかったので、展望は期待していなかったのですが、思いの他雲が切れており、静岡市街から駿河湾まで一望することができました。

年頃の娘さん相手なので、途中の観察や体験を楽しんでもらうにも、ややいつもと勝手が違いました。例えば赤く熟したガマズミの実の味覚体験をしてもらおうとしても、なかなか手が出ません。お母さんが口に入れて「ん、美味しい！」と言うと、恐る恐る手を出してみるといった具合でした。それでもミツマタで「お札の木」、クロモジで「楊枝の木」など、定番の体験をしてもらいました。クロモジの枝を少し切りとって渡すと、嬉しいことに「持って帰りたい」と言ってくれました。その他にはタラノキ、サンショウ、ヤマグワ、キリなど、身近な食材や素材と関わりのあるものを見てもらいました。ただこうした樹木類より、途中で見かけたカモシカ、ヒキガエル、ヤマアカガエル、サワガニなど、動きのあるものの方がずっと印象に残ったようでした。散策を終わっての感想を聞くと「楽しかった」と言ってくれたので、先ずはホッとしました。

(小久保 記)

(中川・高橋担当)

2家族4人を担当しました。元気で好奇心旺盛な子ども達でした。スタート間もなく赤く熟したガマズミの実があったので、早速、味覚体験をしてもらいました。味の程はどうか？おいしいかな？初めての味だったのででしょうか、子ども達にはいい体験だったようでした。嗅覚体験もしてもらいました。クロモジにミヤマシキミ等々。いい香りと正直言ってそれほどでもない香りの体験。ミヤマシキミは有毒植物ですから、もちろん注意する植物であることを説明し、そのほかの要注意植物の話もしました。

生き物では、カモシカが開始早々見られましたし、このほか、ジョロウグモ、ザトウムシの観察、バッタ捕り、サワガニ探などもやりました。子どもはやっぱり虫が好きですね。遊び体験では、親も子も一緒になって、ススキのロケット飛ばしをやらしてもらいました。この他に草笛も体験してもらいました。インストラクターのように自在に吹くことはできませんが、草笛も楽しかったのではないのでしょうか。

そんなこんなで、中間展望台へ行き、景色を楽しみ、池を經由して森の恵みへ戻りました。親も子も、自然観察や自然遊びを十分楽しんでもらえたと思います。

(高橋 記)

(佐野・大石担当)

2家族6人を担当しました。早速、カモシカが出てきたので少し興奮気味に始まりました。道の脇にヒキオコシがあったので、茎に触れてもらい、四角形であるシソ科の特徴を確認してもらいました。雨上がりの後なので水滴の付いたクモの巣が見えました。ジョロウグモです。メスは、お腹の一部が赤いのが特徴で、オスは小さくて目立ちません。オス、メスで大きさが違います。子ども達に「昆虫の特徴って知ってる？」、「羽は何枚あるの？」と聞くと、小さな声で「2枚かな…」と自信なさそうでした。「正解は

4枚です。虫は6本の足と4枚の羽があるので六つと四つで六四(虫)と覚えると忘れません。」と教えました。人工林内では、スギとヒノキの違いや、手入れをしないと立派な木材にならないことも知ってもらいました。

高山の池では、男の子がまだ尾の付いたカエルを発見、オタマジャクシからカエルになったばかりでした。そこから、中間展望台へ向かいました。中間展望台では、お母さんと男の子が大きな声で「ヤッホー!」。小さなやまびこが返ってきました。「ヤッホー!」の後にカラスが「カー」と鳴いたので、皆で大笑い。楽しいひと時を過ごした後、スタート地点へ戻ることにしました。

道すがら、シソ科のシモバシラ、キク科のシロヨメナ、テイショウソウを見ることができました。クロモジの香りを体験したり、ミズバショウやミヤマシキミ、ミズヒキの話をしました。高山を特徴づけるコアジサイはしっかり実をつけていました。5月終わりから6月初めにかけて、池周辺が群落となり、甘い香りが漂うので、その頃はぜひ来てくださるようお話ししました。カモシカ、サワガニ、アズマヒキガエル、カマキリ等々いろいろな生き物を子ども達に見つけてもらい、大人たちも子供たちの生き生きとした姿を見て、満足していただけましたと思います。

(佐野・大石 記)

5 写真





以上のとおり、報告します。

(取りまとめ 杉山)